

カービュー マーケットウォッチ (2010年6月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

金融危機前の08年5月と比べても1.6%増に!

10年5月順位	10年4月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	27,208
2	(2)	→	フィット	ホンダ	11,880
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	9,200
4	(4)	→	カローラ	トヨタ	7,994
5	(10)	↑	セレナ	日産	6,105
6	(6)	→	パッソ	トヨタ	6,089
7	(8)	↑	ヴォクシー	トヨタ	5,853
8	(5)	↓	ステップワゴン	ホンダ	5,818
9	(9)	→	デミオ	マツダ	4,909
10	(15)	↑	ノート	日産	4,868
11	(13)	↑	ノア	トヨタ	4,693
12	(7)	↓	フリード	ホンダ	4,511
13	(16)	↑	ウィッシュ	トヨタ	4,020
14	(12)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	3,948
15	(20)	↑	ティーダ	日産	3,896
16	(21)	↑	キューブ	日産	3,888
17	(19)	↑	ラクティス	トヨタ	3,363
18	(14)	↓	スイフト	スズキ	3,293
19	(23)	↑	インサイト	ホンダ	3,156
20	(22)	↑	エスティマ	トヨタ	3,009

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で10カ月連続プラスと好調をキープ 金融危機前の08年5月と比べても1.6%増に！

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した5月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車全体では30万760台で、前年同月比123%と10カ月連続のプラス。前年同月比が2ケタ増になったのも7カ月連続だ。さらに金融危機以前の08年5月のデータ（29万6085台）と比べても、101.6%と今年初めてプラスに転じた。エコカー減税や新車購入補助金制度のおかげとはいえ、市場低迷の底は脱したといえそう。ただ新車購入補助金制度は今年の9月末で終了。各メーカーの対応策に注目したいところだ。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車は19万3438台で、前年同月比130.7%と依然として絶好調。メーカー合計ではダイハツを除いて前年を上回り、4.1%増のレクサス、3.7%増のスズキ以外は2ケタ増をキープしている。月間ランキングでは13カ月連続トップの「トヨタ プリウス」を含め、2位「ホンダ フィット」、3位「トヨタ ヴィッツ」、4位「トヨタ カローラ（アクシオ、フィールダー、ルミオンの合計）」のトップ4は3カ月連続で順位に動きなし。トップ30圏内では13位「トヨタ ウィッシュ」、15位&16位「日産 ティーダ／キューブ」、19位「ホンダ インサイト」、21位「トヨタ クラウン」、28位「日産 エクストレイル」が前年を下回ったほかは前年同月比がプラスと好調だが、昨年4月からエコカー減税&新車購入補助金制度がスタートし、月を追うごとに売れ行きが上向いてきただけに今後の推移は要チェックだろう。

軽自動車は9万3488台で、前年同月比110%と3カ月連続で前年を上回り、今年初の2ケタ増。ただまだ08年5月の10万5387台と比べると11.3%のマイナスで、本格的な売れ行き回復まではいま一步の状況だ。今年後半までニューモデル投入も予定されていないだけに、しばらくは一進一退が続くかもしれない。

輸入乗用車は海外メーカー製、日本メーカー製含めた全体で1万3834台、前年同月比119.2%と7カ月連続のプラスで、伸び率も2ケタとなった。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が3634台で5カ月連続トップ。2位は2599台でBMW（MINIを除く）がランクアップし、3位は2061台でメルセデス・ベンツ、4位は1331台のオーディだった。前月は落ち込んでいたBMWとMINIも前年同月比130.4%、137%と2ケタ増となり、新型「C3」と「DS3」を投入したばかりの10位シトロエンも台数的には168台だが、伸び率は110%と出足上々だ。

■ココも気になる！その1

買い替えを狙うなら今がチャンス？

エコカー減税&新車購入補助金制度といった公的支援により、なんとか回復基調となった国内市場。ただ新車購入補助金制度は9月末で終了することが決まっている。各メーカーとも、10月からの反動減は年間販売計画に織り込み済みだが、9月までの間に少しでも台数を稼ぐために対応に追われている。例年だと、6~7月は夏季ボーナス商戦、夏休みをはさんで9月に半期決算商戦と2段階の拡販策が採られるが、今年は夏季休業返上の9月まで一大キャンペーンになりそう。特に補助金対象となる「エコカー」モデルは、ディーラー独自の特別仕様車やカーナビなどの用品サービス、低金利クレジット設定など、お得な企画が期待できる。

またモデルチェンジやニューモデルの投入も前倒しされる傾向となっている。時期が早まったかどうかの判断は難しいが、すでにホンダでは7月発売予定の「フリースパイク」に関する情報をWEBで先行公開し、スバルはインプレッサのニューシリーズ、「XV」と「WRX STI 4ドアセダン」の専用サイトを立ち上げている。マツダは7月1日に発売される「プレマシー」の先行予約をホームページでも開始した。ディーラーサイドでは近々モデルチェンジ予定の「日産 マーチ」や「エルグランド」に関しても動きがあるという。これらも“9月末”までという短い営業期間を少しでもカバーするための施策と見ることができるだろう。

ただメーカーにとっては納期を短くするためとはいえ、過剰在庫を抱えることになっては逆に経営を圧迫してしまう。生産部門と営業部門の密接な連携が問われることになりそうだ。とはいえ、買い替えを考えているユーザーにとっては、補助金や値引き幅拡大といった具体的な“効能”があるだけに見逃せない。買い替えの予定があるユーザーは早めに動いたほうが得策だ。

■ココも気になる！その2

世界市場で売れ行き好調なVW。ハイブリッド&EVも積極展開

昨年、10年連続国内輸入車ブランド別販売台数ナンバー1を達成したVWは、今年も1月にエコカー減税対応の「ゴルフ」&「ゴルフヴァリアント」を投入したのをはじめ、3月には1.2リッター直噴ターボエンジン搭載の「ゴルフ TSI トレンドライン」、5月にも「ポロ」に1.2リッター直噴ターボエンジンを採用するなど積極的。このため1~5月の累計で1万9231台、前年同期比128.2%と好調だ。08年5月データ（2万713台）と比べても、92.8%と1ケタのマイナスまで盛り返している。これは世界市場でも同様で、1~5月のVWグループ乗用車全体で前年同期比18.1%アップの294万台を記録。特に中国では48.2%増の77万7800台を売り上げた。

しかし本国ドイツでは日本の新車購入補助金制度にあたるスクラップインセンティブ施策が終了した影響で、前年同期比12%マイナスと低調だ。これもあって、日本では当初、昨年発売した1.4リッターエンジンのポロをラインナップに残すはずだったが、全車エコカー減税&新車補助金制度に対応する1.2リッター直噴ターボエンジンに切り替えた。こうした市場ごとに素早く対応する力こそ、VWの魅力ともいえる。

さらに VW はハイブリッドカーや EV（電気自動車）といった環境対応モデルにも積極的。今年のジュネーブショーで発表された「トゥアレグ ハイブリッド」は、すでにヨーロッパでは販売が開始され、12年に「ジェッタ ハイブリッド」、13年には「パサート／ゴルフ」のハイブリッドを投入する予定。また EV に関しても、来年ゴルフベースの EV・500 台で実証実験を開始し、13年には新型コンパクトの「up」や「ゴルフ／ジェッタ」で量産を開始するという。スズキとの提携を含め、販売台数世界ナンバー 1 を目指す VW は本気だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
